



## 「ピースあいち」今年のテーマ

### 戦後70年—明日へつなぐ平和

この表題は、戦後70年に込めた「ピースあいち」の思いを表した標語です。運営委員会で激論(?)の末、選ばれたものです。戦後70年続いたこの平和な社会を明日の世代へつなぎたい、そのために何

ができるかを問いかけ、「ピースあいちも精いっぱいのことをしよう」という覚悟が込められています。これを「ピースあいち」の1年間のテーマとして、さまざまな企画をしています。



### 写真展「平和を紡ぐ1000人の女性」

4月7日(火)～5月10日(日)

2005年度のノーベル平和賞に、平和のために草の根で活動する世界の1000人の女性たちを推薦する国際的なプロジェクトがありました。その女性たちを紹介する本の出版とともに、世界各地で開かれてきた写真展です。草の根で活躍する女性たちの力強いメッセージを感じてください。(協力:日本環境保護国際交流会(JEE))

### ■講演会 「平和を紡ぐ世界の女性たち」

日時 4月11日(土)午後1時30分～3時

講演者 山根和代さん

(立命館大学 国際関係学部 准教授/平和のための博物館国際ネットワーク理事)

場所 「ピースあいち」1F交流スペース

\*参加者希望の方は「ピースあいち」にお電話を。

\*入館料のほかに、資料代500円が必要です。

### 企画展「戦後70年 今、振り返る沖縄戦と日本軍」

5月19日(火)～7月4日(土)

第1部は、<沖縄戦の実相—今に伝える>と題し、沖縄戦を解説するパネルと沖縄戦の実態を伝える実物資料を、沖縄の資料館から借りて展示する予定です。また沖縄戦における愛知、名古屋の兵隊たちについても触れます。

第2部は<沖縄戦—体験を今に伝える人々>です。愛知県出身で沖縄戦を兵士として体験した方、沖縄県出身で幼い頃に沖縄戦を体験した方の人物紹介と関連資料を展示します。スタッフは体験者のご

遺族から新しく聞き取りをして展示を準備しています。

第3部は<沖縄の今を伝える>として、沖縄在住の写真家の作品展示を行う予定です。辺野古基地建設問題など本土ではあまり報道されていない今の沖縄をリアルな写真で伝えます。さらに現在沖縄に駐留しているアメリカ4軍(海兵隊、海、空、陸軍)や普天間基地の問題も展示します。

### 「民間戦没船と船員の記録」展

7月7日(火)～7月18日(土)

太平洋戦争で戦没した日本船員は60,609名、戦没した船舶は15,518隻と記録され、船員の死亡率は陸海軍軍人の2倍以上の43%と言われています。「戦没船を記録する会」と「戦没した船と海員の資料館」(神

戸市)の協力を得て、東海地区で初めて、戦没船と船員の戦争被害の記録を紹介します。

炎上する第二十三日東丸(漁船)▶



## 企画展「戦争と若者―没後70年 竹内浩三の詩とその時代」

7月21日(火)～8月30日(日)

竹内浩三とは、あの戦争中に「戦死やあわれ  
兵隊の死ぬるやあわれ」とおい他国でひょんと死ぬ  
るや」という有名な詩を書いた青年です。

竹内浩三は伊勢で生まれ、フィリピン・ルソン島で  
戦死するまでの23年の人生をひたすら本音で生き、  
詩やまんがを書きました。普通に暮らし、ある日兵隊  
に召され、遠い戦場で死んだ若者の遺したものをと  
おして、軍隊とは、兵士とは、戦場とは何かを伝え、  
今の日本を見つめなおしたいという企画展です。ど  
うかご期待ください。



竹内浩三  
日大時代の親友・山室龍人と。

報告

### 企画展「知っていますか？

### このまちに爆弾が降った～名古屋大空襲から70年」

3月3日(火)～3月28日(土)

名古屋大空襲は軍需工場への爆弾によるものと、  
市街地への焼夷弾によるものが20回以上ありまし  
た。航空機産業の拠点だった名古屋はアメリカ軍の  
爆撃機B-29編隊の重要な攻撃目標でした。1万4千ト  
ン以上の爆弾と焼夷弾が投下され、東京・大阪の大  
空襲に匹敵するものでした。焼失面積は当時の名古屋  
市域の約24%に及びました。名古屋大空襲から70  
年、今回は3パートで構成しました。

①1944(昭和19)年12月13日、空襲を受けた東区  
の軍需工場にいた東邦高校の動員学徒や、昭和20  
年1月23日女学生のとき学校で工場作業に就いてい  
るとき空襲を受けた方、市街地空襲で空襲を受けた  
市民、それぞれの体験手記と、アメリカ軍が撮った写  
真や作戦任務報告書など。②市内にある空襲があ  
ったことを今に伝える戦争遺跡の写真と解説。③  
名古屋大空襲を描いた漫画『あとかたの街』(講談  
社BE・LOVE連載中)複製原画展。作者おざわゆき  
さんが母親から聞いた体験を元にして描かれています。  
主人公あいの日常や家族に空襲が迫って来た  
10場面を抜き出しました。



#### ○空襲遺跡マップの作成

名古屋の空襲遺跡として、「千種公園の被爆塀」や「焼  
けただれた長栄寺の山門」等16カ所を展示しました。実際  
に現地に行ってみても、修復されていて、気が付かないも  
のもあるし、70年の歳月で風雨に当たり、わかりにくくな  
っているものもありますが、一見すればわかるものを中心に展  
示しました。来館見学者が見に行けるように地図を展示す  
るとともに、縮小したマップを作成し、持ち帰れるようにしま  
した。

報告

### 写真展「東日本大震災から4年―福島、今」

3月3日(火)～3月28日(土)

大震災から4年、福島第一原発事故による放射能汚染の状況  
は、今も変わっていません。自主避難の人々を含め数十万の人  
たちは故郷に戻ることができません。汚染水など放射能の除去も  
遅々として進まず、原発内部の状態も全く判りません。今回「福  
島の今」を知っていただくため、「NPO法人チェルノブイリ救援・  
中部」の協力を得て開催しました。



報告

2014年所蔵品展

「資料深読みー戦時下のあんなモノこんなモノ」

2014年11月11日(火)～2015年1月10日(土)

今から70年ほど前、日本は戦争をしていました。若者は戦場に送られ、国民は苛酷な暮らしを強いられました。戦争末期には空襲で多くの人が犠牲になりました。近年の若い人たちは、こうした苛酷な生活を知りません。そこで、当館のメール・マガジンで紹介した所蔵品の記事50点から銃後の暮らしに関する戦時遺品を18点選び、さらに「深読み」をして展示しました。

このたびの展示では、主として常設展には出ていないモノを並べました。日中戦争時の防空訓練で使用した防毒マスクや真空管ラジオ、現代ではあまり目にしない蚊取りの粉末、洗髪用の粉や戦時中の紙芝居「母さ



ん部隊長」なども展示しました。

若い人は物珍しく見入っていましたし、二人連れの年配の方は戦時の思い出を語り合っていました。

ボランティア全体会 3月14日(土)

「ピースあいち」では、毎年3月中旬に「ボランティア全体会」が開催されます。日頃は曜日ごと、班ごとに活動しているので、「ピースあいち」の全体像を把握することが難しいです。そのため、「ボランティア全体会」は各班、委員会の活動内容を知ったり、あまり顔を合わせる事のないボランティアとの親睦を深めたりするのに、絶好の機会となっています。

3月14日に行われた全体会は、前半の情報連絡会で戦後70年

のさまざまな企画についても紹介され、一年間を見通すことができました。また、後半の親睦会では20代、30代のボランティアからの貴重な意見や感想を聞くことができ、若い人たちの存在を頼もしく思いました。当日説明されたボランティア年代別構成比によれば、20代30代は約10%を占め、70代80代が約50%を占めているとのこと。若い力はもちろん、高齢者の気力、探究心も衰えを知らず、「ピースあいち」の底力を感じさせられる全体会でした。



報告

犠牲者追悼の夕べ 3月14日(土)

1944年12月13日から1945年7月26日まで続いた名古屋空襲では7,802人が犠牲になったとされています。しかし行方不明者数も多く正確な数はわかっていません。夜間市街地空襲のあった3月からは、焼夷弾が降り注ぎ市民のくらしの場が焼き払われました。「ピースあいち」は犠牲者の追悼と、名古屋空襲を伝える場として毎年この時期に「追悼の夕べ」を行っています。

第1部は「朗読と歌 / 戦争の時代を見つめてII」。出演は『緑風の会』の朗読者3人にピアノ奏者と歌い手でした。名古屋空襲体験者の手記や詩人の原爆詩などが、胸に深く響きました。

日が沈みかける頃、「ピースあいち」の平和地蔵前で第2部の「ともし火法要」に移りました。平和を願うメッセージを貼り付け、ろうそくを立てたペットボトル約100個を並べ、僧侶の読経が流れる中、焼香をしました。



## 平和へのメッセージ

日本は、憲法九条で「国際紛争を解決する手段とする武力を永久に放棄し、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない」と定めました。しかし、今や日本の自衛隊は、世界の軍事情力ランキングでは、アメリカ、中国、ロシア、イギリスに次いで第5位となっています。(2013年国際平和研究所SIPRI公表値)。さらに、安倍内閣は2014年7月1日、歴代内閣が憲法九条の解釈で永年禁じてきた集団的自衛権の行使を認める閣議決定をしました。

このような情勢の中、「ピースあいち」でボランティア活動が続けられている方々に、平和への思いを寄せてもらいました。

### 「平和への思い」をどう広げるか 大野 恵

ボランティアを始めて一年が経とうとしています。私は主にチラシや展示パネルの制作を担当しています。「ピースあいち」には専門的な知識を持った方や「平和への思い」を多くの人に届けたいと活動している方々がいます。しかし、世間には「『ピースあいち』?興味ないな」という方もいます。せっかく長い期間をかけて準備する企画や展示だからこそ、多くの人に

見てほしい。そのためにも興味がない人にも関心を持ってもらえるようなチラシを作りたいと日々考えています。

今まで興味がなかった人が「ピースあいち」に来たことで「平和について考える」きっかけができる。そのことで、少しずつでも「平和への思い」が広がっていくと良いなと思います。



### 平和の輪を広げるお手伝いを 河合 忍

「ピースあいち」でボランティアを始めて一年。戦争関連の資料館でボランティアをしていると友達に話すと、どうしてまた、とよく驚かれます。かつて私もそうでしたが、戦争と聞くとどうしても暗く、悲しく、ふれたくないイメージが付きまといまいます。「ピースあいち」に関わる方と接する一方、私のまわりの、特に若い世代は戦争に関する知識、平和のありがたさ、そして関心が薄いように感じます。それも時代の流れと

いえばそれまでですが、戦争を遠い昔の出来事、遠い国で起こっている出来事と思わず、もっと関心を持ってもらえたら、と思います。

実際に起こった悲しい現実を前に、平和を願わない人はいません。「ピースあいち」には一つの願いの下に多くの方が集まっています。「ピースあいち」の活動を通して平和の輪が広がっていくよう、少しでもお手伝いできればと思っています。



### 来館者五万人達成! 3月7日(土)

「ピースあいち」は2007年5月4日の開館以来、7年10カ月で来館者5万人を達成しました。この日は「愛知県高校生フェスティバル実行委員会」の高校生たち約60名が来館し、5万人目は、淑徳高校2年の足立知奈津さんでした。野間館長から、足立さんとその前後の友達2人に「ピースあいち」のブックレット4冊と缶バッジを記念として贈呈しました。その様子は、新聞やテレビでも報道されました。



## 国民の覚悟

今年はアジア太平洋戦争が終わり、新憲法の下、戦争をしない平和な国として再出発してから70年になります。平和日本は国際的に評価され各国から信頼されてきました。

私が平和を求め戦争に反対する理由を聞かれると、生活をエンジョイしたいからと答えます。エンジョイの仕方は個人個人

## 山田 恵三

それぞれ違いますが、私だけでなく、日本人だけでなく、世界の人々に人生をエンジョイして貰いたいです。

最近、平和日本が崩れかけています。この節目の年に日本がどの道を歩むのか、国民一人ひとりに責任がかかっています。



## 平和の尊さを伝えるため、戦争の体験を語る。 並木 和子

「ピースあいちニュース」の「平和へのメッセージ」原稿を前に、平和に密接な関わりのある法制案などの拡大解釈など日々揺れ動く議論を耳にし、不気味な予感の中、なかなか筆が進まない。米寿という当方の老化現象も否めないが。戦後70年のその前の15年間の戦争への突入の頃から、一夜の空襲で10万人の命が奪われたあの東京大空襲を荒川に近い陸

軍兵器工場で深夜勤作業中に体験し、夜勤帰りに焼け野原となった町を抜け、国電の線路上を歩き続けて帰宅した記憶は生々しい。忘れられない戦争の体験を語ることで、平和の尊さを伝えるメッセージとしたい。3月21日(土)朝日新聞の第一面には大見出しで次の字が踊っていた。

自衛隊海外活動を拡大  
憲法解釈の変更容認



## この道はいつか来た道

「戦争が廊下の奥に立っていた」―俳人・渡辺白泉の句である。この句には、こんな措辞がある。「廊下の奥には会議室があって、そこでは戦争に関する機密が謀議されていた。それが戦争を引き起こす実体であり、機密の漏洩を防ぐために廊下には歩哨の憲兵が立っていたのである」と。

戦後七十年。戦災復興を成し遂げ、経

## 斎藤 孝

済高度成長政策が功を奏して経済大国になった。一方で公害が噴出し、幾多の自然災害にも見舞われ、原発事故も起きた。この歳月のなかで、日本は他国の戦争に巻き込まれることはなかった。戦争をしないと決めた「日本国憲法」のお陰である。

いま、廊下の奥の会議室では戦争ができる密議が始まっている。それが誰かは既に自明である。



### 3000羽の千羽鶴を 広島平和記念資料館へ。

平和を祈念して来館者に折っていただいている折り鶴が3000羽を超えたので、今年もボランティアの手で千羽鶴にして広島平和記念資料館に送りました。千羽鶴は「原爆の子の像」の周りにささげられます。



### 常設展のリニューアル

今年度の計画のひとつに、2階の常設展示資料の入れ替えがあります。現在の展示資料にはテーマとの関連が薄いものや整合性に欠けるものもあるので、見直しをして、資料にもっと関心が高まるのが狙いです。

そのために展示する資料を入れ替え、解説文の作成、また展示方法にも工夫をします。本年、9月を目標に作業を進めています。



## 2014(平成26)年度 語り手の会の活動、延71回

「ピースあいち語り手の会」の活動も6年目に入り、2014年度も3つの柱のもとに取組みました。

### 1) 平和学習支援事業

戦争に関する資料館調査会(愛知県・名古屋市で設置)から受託して、愛知県下の小中学校を巡る事業で、本年度は名古屋市のほか新城市、豊明市、津島市、豊山町など13校(小学校11校、中学校2校)で実施し、1,129人の児童・生徒らが聞いてくれました。

### 2) 夏の戦争体験を語るシリーズ

2014年の夏は8月1日から15日までの間に10回開催しました。聴衆は全体で505人に上りました。

### 3) その他の語り活動

上記のほか、弥富市を始め東海地区の小中学校

や各種団体からの要請に応じて語り手を派遣したり、「ピースあいち」を訪れた学校・団体に対して戦争体験を語る活動を行いました。聞き手は延48学校・団体、2,425人に達しました。

この結果、実施した語り事業数は延71回、聴衆総数は4,059人に上りました。

いくつかの学校では、こうした体験をホームページに載せたり、事業の内容を学級通信としてまとめたり、心のこもった作文を書いて「ピースあいち」へ送ってくれたりしました。子どもたちに与えたインパクトの強さを感じました。



### 第30回戦災・空襲記録づくり東海交流会開催 2014年12月14日(日)

「戦争と平和の資料館ピースあいち」で「戦災・空襲記録づくり東海交流会」が開催されました。記念講演は東京大空襲・戦災資料センターの山辺昌彦氏で、豊富な資料と映像を使った講演でした。特別報告は①竹川日出男氏(ピースあいち語り手の会)②伊藤泰正氏(豊川海軍工廠跡地保存を進める会)③渋井康弘氏・大脇肇氏(名城大学)でした。25団体62人と過去最高の参加者でした。



### 映像による学習会 毎月第2土曜日 午後4時半開始

参加費無料

- 10月11日 「また逢う日まで」(1950年制作)
- 11月8日 「教えられなかった戦争・沖縄編 阿波根昌鴻・伊江島の戦い」(1998年制作)
- 12月13日 「いちご白書」(1970年制作)
- 1月10日 「ホタル」(2001年制作)
- 2月14日 「グッドナイト&グッドラック」(2005年制作)

●スタッフから 映画の選定はどうしているか?と質問されることがあります。選定の手順は、毎月のイベント委員会で委員が希望作品を提案して決定します。この上映会も2007年に始まって8年、上映作品は70本以上となり、最近では候補が少なくなりました。もちろん、良い作品は再上映も考えていきますが、より多くの方が参加するためには、ボランティアの皆さんや、勉強会に参加された方のリクエストもお願いしていきたいと考えます。

## 増えてきている 小学校の見学

年明けの1月6日、名古屋と豊田の合わせて3つの小中学校から、先生が下見にやってみえました。この日は他に、電話での問い合わせも3校からあって「『ピースあいち』も知られてきたぞ」とホッとしたり、嬉しくなったり。

このうち豊田の小学校の子どもたちは、1月30日、バスと電車で1時間半もかけて来館しました。その学校の先生が言うには「昨夏、自分が見学して、是非とも子どもたちを連れてきたいと思ったものですから」。



これにはちょっと感動しました。

地元の名東区、守山区の小中学校の先生方が1月、2月と続けてグループ研修においでになって、これが「ピースあいち」見学の輪が広がるきっかけにならないかと期待しているところです。

### 子どもたちの感想

来館した小学生たちが書いてくれた文章から抜き出しました。原文のまま掲載します。小学生が真剣に考えてくれていることがよくわかります。

#### ○小3が感じたこと

※今は、平和だけど、わたしたちが20さいになった時に、戦争をやらないように、これから、せんそうのないようにしたいです。(女)

※今日「ピースあいち」についてせんそうのおそろしさをあらためて学びました。前はせんそうに行ってみたくてわくわくしていたけれど、せんそうがそんなにこわいものということはしりませんでした。せんそうはぜったいやめたさせたいと思います。(男)

※広島に夏休みに行きました。げんばくドームも見ました。そのときも教えてもらったけど、前よりよく分かりました。少しこわいし、かなしかったけどいろいろなこ

とがわかってよかったです。(女)

#### ○6年生が思ったこと

※パンフレットにもある『焼き場の少年』を見て、僕は泣きそうになりました。背中の子の気持ちを考えると胸にこみ上げてくるものがあります。僕は、本当に本当に今の時代に生まれてこれて良かったです。(男)

※私は世界の1人1人が「平和になりたい」と心に決めれば世界は必ず平和になると思います。戦争をして笑顔になる人はいない。うれしくなる人はいないと思います。(女)

※今日は平和ということ考えた日になりました。「平和とはなに?」という、ガイドさんのといかけに、すぐに答えられなかったのも、そのせいです。私は今の日常と言おうと思いました。でも、今でも争いは続いています。これをなくすことが、これからの仕事だと思いました。(女)

## 資料館探訪 12

### 謀略やBC(生物・化学)兵器の研究-登戸研究所

旧日本陸軍によって開設された「陸軍登戸研究所」は、戦時中、軍・学・産・官が一体となって「秘密戦」のための兵器や資材を研究開発した。その存在は陸軍のあらゆる規定から消されていたが、高校生をはじめ地域住民の地道な活動により、実態が次第に明らかにされていった。

その跡地をキャンパスとしていた明治大学が、現存する建物の一部を利用して2010年に開設したのが平和教育登戸研究所資料館(川崎市生田キャンパス)だ。ここで行われていた風船爆弾や電波兵器、生物化学兵器やスパイ用品などの

研究開発、中国での経済謀略活動のための偽札製造などについて、実物や模型を使いわかりやすく展示してある。そこからは、研究者や企業、そして一般の人々が否応なく巻き込まれ、次第に常軌を逸していく戦争の恐怖が感じ取れる。

(A.Y)





# 募集! 「戦争の記憶」

戦時遺品 聞きとりレポート 体験記・談・作品 の募集

戦後70年 一聞こう、語ろう。戦争のこと・平和のこと。

## 募集しています。「戦争の記憶」

戦争体験者がだんだんと少なくなり、戦争の実相が風化していくなか、世界では戦火が絶えず、「戦後」のはずの日本も「戦争する国」へと歩みを進めています。

平和な世界をつくりたい。それは、戦争の実態を知り、学ぶことから始まります。過去の戦争についての人やモノにまつわる記憶は、そのための大切な教材です。

戦火をくぐり抜けてきた方たちは、一人ひとりひとりが壮絶な戦争体験をもっています。その体験をぜひ残してほしい。若い方

ちには、おじいちゃんやおばあちゃん、周りにお年寄り、「戦争体験」を聞いてほしい。また、平和への思いを、絵や詩などの作品にしてほしいと思います。

たくさん戦争遺品・作品が集まれば、戦争の実相が、より身近に迫り、平和への思いもより明確になってきます。「戦争の記憶」を残す取り組みに、ぜひご参加ください。

具体的な応募要項は、ホームページ等をご覧ください。



月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン(無料)」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

## 会員1,000名を達成!

「ピースあいち」の基本財源は、大人300円(子ども100円)の入館料と会員の皆さんの会費(正会員=6000円/賛助会員=3000円)です。「ピースあいち」開館以来数年間、正会員・賛助会員合わせて約800名で推移してきましたが、最近大きく減少してきました。基本的要因は会員の高齢化です。

この現状に危機感をいだき、私たちは昨年夏から会員拡大に取り組みました。その結果、今年1月末で、正会員347名/賛助会員655名、合せて1,002名となりました。ご協力、ありがとうございました。

しかし、「ピースあいち」の年間経費約1,200万円にはまだ遠く及びません。自主財源の確立は、会員の拡大です。今後とも会員の拡大につながる活動ができるよう努めていきます。どうぞ、よろしく願いいたします。

## 「ピースあいち」への交通のご案内



## 【ピースあいちの利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日・年末年始
- 入館料 大人 300円 小中高生 100円
- 2階の常設展示室のほか、1階の「現代の戦争と平和」というテーマの常設展示。ほかにも準常設展示として「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」があります。1階には戦争に関する図書や戦争体験談のDVDライブラリーもあります。
- 学校や団体の見学で、展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります(300円)。他に障がい者用が1台分あります(無料)。

## ●編集後記●

今年に入ってテレビや新聞などマスメディアは、「戦後70年」をテーマとする特番や特集の記事を企画している。当館も「戦後70年 明日につなぐ平和」をキャッチフレーズにした企画展を幾つか予定している。いま、年齢七十代以下の世代は、先の戦争の実態を知らない。戦争の記憶が薄れていくなかで、戦時の苛酷な暮らしを振り返って見ることは貴重である。

自民党保守政権は、いま危険な道を歩んでいる。武器輸出三原則の緩和、特定秘密保護法の制定、集団的自衛権行使の容認など戦争への道をまっしぐらである。

いまこそ、平和を守る声を一人ひとりがあげることが肝要である。(S)